

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.20
平成26年12月12日

マララさん「教育を」と受賞演説 ノーベル平和賞！ -12/10のニュース記事より

パキスタンで女子教育の権利を求め、イスラム過激派に銃撃されたマララ・ユスフザイさん(17)は、オスロで10日、史上最年少の17歳でノーベル平和賞を受賞しました。受賞演説では、学校に行けない子どもがいる状況について「空っぽの教室を私たちでもう終わりにしましょう」と語りかけ、全ての子どもが教育を受けられる世界の実現を訴えました。さらに、賞金で故郷に学校をつくる計画も明らかにしました。

桜小学校の4年生は、先日、道徳の時間に、マララ・ユスフザイさんの国連演説についての感想や「ぼくたちは、なぜ、学校へ行くのか」についての考えを発表しました。以下に紹介します。

マララさんの演説を聞いて、あなたは、どんなことを思ったか

わたしは、マララ・ユスフザイさんの演説を聞いて、「ペンは、剣よりも強し」という言葉が、とても心に残っています。わたしたちは、何不自由なく暮らしていたので、そんなこと思ったことはなかったですが、世界でとても苦しんでいる人がいると思うと、わたしだったら、「死にたい」と思ってしまうけど、あきらめずに反対したマララさんは、すごいと思いました。 M・K

ぼくは、男子だけ学校へ行行って、女子は学校へ行けないのはかわいそう。武装グループは、なくなってほしい。マララさんは、どんなに学校へ行きたいと言っても、銃で頭を撃たれて、友だちもいないし、さみしい。 D・S

学校に行くのは当たり前だと思っていたけど、外国では勉強ができなく、いろいろな仕事をさせられている子がいるのはかわいそうだなと思いました。これからは、世界中の子ども達が、学校へ行行って勉強できるようになってほしいと思いました。 A・H

ぼくたちは、なぜ学校へ行くのか-マララ・ユスフザイさんの国連演説から考える

ぼくは、学校に行行って学び、学んだことを生かして将来の夢をかなえたいから、学校に行きます。ぼくは、今まで学校が休みになると、「ラッキー」と思っていました。それは、間違いだということに、今、やっと分かりました。

この世界には、学校に行きたくても行けない子がいるのに、ぼくたちは、学校に通えているから、学校に通えることを幸せに思います。 R・S

幸せになるために学校へ行行くと思う。外国でも関係なしで、学校に行かせてあげたい。生きていくための場所だと思う。「この子は行けて、あの子は行けない」というのはいやだ。みんな平等に勉強して、友だちと遊んで、運動して、悲しいことも、苦しいことも経験して大人になっていくのだと思う。 S・T

学校は、友だちと一緒に楽しく生活し、分からない問題を教え合ったりする場所だったり、男女ともに勉強したり、遊んだり、助け合ったり、けんかして仲直りしたりする場所だと思います。 K・A

人が学校に行くと、友達と話す力、みんなと話し合う力、いろんな力がつき、それが日本の未来を変えていくような気がする。そのために学校に行って、友達と話し、意見を出し合うことが必要である。学校は、人が生きていくための力を付ける場所だと思う。そのために学校は必要。 Y・O